

川村学園女子大学大学院
人文科学研究科

比較文化専攻の概要

前期課程・後期課程

地域文化研究分野
社会・文化コミュニケーション分野
女性学分野

川村学園女子大学大学院

<連絡先>

川村学園女子大学

我孫子キャンパス 事務部 入試広報
〒270-1138

千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地

TEL. 04-7183-0114(直)

川村学園女子大学大学院の概要

目 次

人文科学研究科 比較文化専攻 ディプロマ・ポリシー	1
カリキュラム・ポリシー	2
人文科学研究科の概要	3
目的、標準修業年限、修了要件、入学定員・収容定員、 役職教員、図書館、教育職員免許状、公認心理師、臨床心理士、奨学金	
比較文化専攻（前期）の概要	5
修士論文指導教員選定資料	6
教員紹介	8
比較文化専攻（後期）の概要	12
博士論文指導教員選定資料	13
教員紹介	14
研究指導の流れ	16
博士後期課程における出願事前相談	16

各研究科の履修要綱やシラバス等の詳細は本学ホームページにあります。

本学トップページの「キャンパスライフ」→「川村学園女子大学 履修案内・シラバス」
から参照してください。

アドレスは <https://www.kgwu.ac.jp/campuslife/syllabus/> です。

また、こちらのQRコードからもアクセスできます。

人文科学研究科（大学院）はページの下の方にあります。



この概要は2025年度の内容です。2026度の一部改訂される場合があります。

人文科学研究科 比較文化専攻 ディプロマ・ポリシー

比較文化専攻 博士前期課程

【学位授与方針】

比較文化専攻博士前期課程では、研究者としての自覚を涵養し、専門分野における高度な知識を生かして社会に貢献できる人材を育成するため、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、修士論文を完成した学生に修士（文学）の学位を授与する。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 人文社会諸科学に関する学識を有し、研究分野における高度な専門知識及び方法論に習熟している。
2. 研究分野における課題探求力、分析力、考察力があり、自分の考えを論理的に展開でき、研究成果を発表し、ディスカッションができるコミュニケーション力がある。
3. 主体性を持ち、研究に携わる他の人々と協力して問題の解決に取り組むことができる。

【学位授与の基準】

- ・人文社会諸科学の研究分野における高度な専門知識を身に付け、それを問題解決のために運用することができる力を有していること。
- ・社会における貢献を目指し、他者と交流して問題解決に取り組む姿勢を有していること。

比較文化専攻 博士後期課程

【授与方針】

比較文化専攻博士後期課程では、研究者としての自覚とふさわしい人格を有し、研究分野における学際的視野と知識を以て真摯に問題に取り組む人材を育成するため、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得し、博士論文を完成した学生に博士（文学）の学位を授与する。

【学生が身に付けるべき資質・能力】

1. 人文社会諸科学に関する学際的な知識、研究分野における高度な学術的知見を有し、独自性のある視点から研究ができる。
2. 研究分野における問題提起力、分析・考察力、論理的展開力があり、研究成果を発表し、ディスカッションができるコミュニケーション力がある。
3. 主体的に研究に取り組み、他の研究者の意見を真摯に聞き、協力して問題解決に取り組むことができる。

【学位の授与の基準】

- ・人文社会諸科学の研究者としての自覚を持ち、専門分野の高度な知見を社会に生かそうとしていること。
- ・独自性のある研究業績を公表していること。
- ・社会における貢献を目指し、他の研究者と交流できること。

人文科学研究科 比較文化専攻 カリキュラム・ポリシー

比較文化専攻 博士前期課程

【教育課程の編成】

比較文化専攻は、地域文化研究、社会・文化コミュニケーション、女性学の3分野からなり、学際的知見を身につけ、修士論文を完成できるようカリキュラムを編成している。

1. 地域文化研究分野では、日本、アジア、欧米等の諸地域に関する歴史・文化・地理等の高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。
2. 社会・文化コミュニケーション分野では、宗教、言語、教育、民俗、地域活動に関する高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。
3. 女性学分野では、ジェンダーにおける歴史、教育、批評に関する高度な専門知識や方法論を習得するための科目を配置している。
4. 専門分野の資料の読み方、調査方法、論文の書き方等を習得できる基礎科目を配置している。

【学修方法・学修過程】

1. 地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野、女性学分野から科目を横断的に履修できる。
2. 基礎科目によって、専門分野の資料の読み方、調査方法、論文の書き方を習得する。
3. 指導主任教員からの研究指導に加え、年に2回、研究発表会で研究成果を口頭で発表し、他の教員、学生から助言を得る。
4. 学修の集大成として、専門的な視点から修士論文を完成させる。

【学修成果の評価】

GPAによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。また、論文作成、研究発表会での発表を通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。

比較文化専攻 博士後期課程

【教育課程の編成】

比較文化専攻は、地域文化研究、社会・文化コミュニケーション、女性学の3分野からなり、高度に学際的かつ独自性のある視点から研究を行い、博士論文を完成できるようカリキュラムを編成している。

【学修方法・学修過程】

1. 地域文化研究分野、社会・文化コミュニケーション分野、女性学分野から科目を横断的に履修できる。
2. 長期研究計画書作成し、指導主任教員及び他の教員からの指導・助言を得ながら、研究成果を年2回、研究成果発表会で口頭発表し、他の学生や教員から講評を得る。
3. 研究成果を『川村学園女子大学大学院研究年報』に1編以上掲載する。さらに査読付の学術研究誌に2編以上論文を掲載する。
4. 学修の集大成として博士論文を完成する。

【学修成果の評価】

GPAによる成績評価を運用し、適切な評価を行う。また、論文作成、研究成果発表会での発表を通じて、学生の主体的な学修と協働の態度を養い、評価する。

人文科学研究科の概要

○目的

教育基本法、学校教育法および川村学園創立の精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、清深な学識と研究能力を養うことによって、広く文化の向上進展に寄与することを目的とします。

現代社会には、諸問題に対して未来を予見し、深く真摯に考究し、問題解決能力を備えた指導的役割を果たす人材育成が、最も緊要なことであります。本大学院は、これに応えるべく、高度な専門性を持つ職業人の育成や研究者の養成、さらに意欲ある社会人の再教育を行うプログラムが設定されています。

本大学院は、「心理学専攻」、「比較文化専攻」の2専攻で構成される男女共学の大学院です。「心理学専攻」は修士課程、「比較文化専攻」は博士課程（前期・後期）が設置されています。

学界の重鎮、一流・気鋭の学究を擁し、最新の設備と教育機器さらに豊富な図書により、院生一人ひとりの個性・特性を尊重しつつ、教員スタッフの渾身の指導が展開されています。

○標準修業年限

標準修業年限は、心理学専攻の修士課程および比較文化専攻博士前期課程（修士）は2年、博士後期課程（博士）3年とします。なお、在学期間は修士課程および博士前期課程では4年、博士後期課程では6年を超えることができません。

○修了要件

心理学専攻の修士課程および比較文化専攻博士前期課程では、2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した者に**修士**の学位を授与します。ただし、在学期間に関しては、本大学院が特に優れた研究業績を挙げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

比較文化専攻博士後期課程では、3年（修士課程または博士前期課程に2年以上在学し当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年以上の在学期間を含む）以上在学し、14単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格した者に**博士**の学位を授与します。ただし、在学期間に関しては、本大学院が特に優れた研究業績を挙げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

本大学院において授与する学位は次のとおりです。

専攻	学位の種類
心理学	修士（心理学）
比較文化（前期）	修士（文学）
比較文化（後期）	博士（文学）

○入学定員／収容定員

専攻	入学定員	収容定員
心理学	10名	20名
比較文化（前期）	5名	10名
比較文化（後期）	3名	9名

○役職教員

学長：西川 誠

副学長：鵜沼 秀行

研究科長：田中 裕

心理学専攻長：田中 裕（兼任） 比較文化専攻長：高山 啓子

○教育職員免許状

本大学院において取得できる教育職員免許状の種類・教科および認定課程は、次のとおりです。

免許状の種類および教科	認定課程としての専攻	基礎資格および修得単位数
高等学校教諭専修免許状（公民）	心理学専攻	修士の学位を有し、本大学院における教科および教職に関する科目24単位
中学校教諭専修免許状（社会）	比較文化専攻	
高等学校教諭専修免許状（地理歴史）		

専修免許状を取得しようとする場合（申請手続きについては別に定められている）、専修免許状と同一教科の「中学校教諭一種免許状」あるいは「高等学校教諭一種免許状」をすでに取得していることを原則とします。

○公認心理師

公認心理師法第7条に則り定められる「区分E」に従い、本大学院において施行規則第2条で定める科目を履修することにより「公認心理師」の受験資格を取得できます。（他「区分」に対応できる場合もあります。応相談。）

○臨床心理士第1種指定大学院

本大学院心理学専攻臨床心理学領域は、財団法人日本臨床心理士資格認定協会から2009年4月1日より「臨床心理士第1種指定大学院」の指定になりました。

臨床心理士学領域の院生が、次の要件を満たし、（財）日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士」の受験資格を取得できます。

- （1）指定された専攻・課程（領域・コース）の修士課程を修了していること。
- （2）それぞれ指定の26単位以上修得していること。
- （3）修士論文が臨床心理学に関すること。

○図書館（「黄鶴館」）

図書館は、院生にとって欠かせない文献・資料を総合的に収集・保存・提供するいわば「知の殿堂」であり、利用者である院生をあたたく迎えてくれます。

蔵書冊数は約236,000冊、視聴覚資料約14,500タイトルです。本学と時期を同じくして設立された大学図書館としては、格段な蔵書冊数を誇っています。とくに、院生が有効に利用できるよう、次のサービスを行っています。

- （1）貸出冊数・期間：10冊 1か月（延長手続き制度あり）
- （2）文献探索ガイダンス：毎年度実施
- （3）レファレンス・サービス

司書は、あらゆる資料に関する相談に応じます。本館に求める資料がない場合は、図書館相互利用制度により、外部機関を紹介すると同時に、必要あればその資料を取り寄せます。

○奨学金

- （1）川村学園奨学融資金制度

在学中に経済的理由のため、学業を継続することが困難になった場合に貸与を受けられる本学園独自の奨学制度です。その種類には、第I種から第IV種まであります。

- （2）日本学生支援機構奨学金制度

人物・学力ともに優秀でありながら、経済的理由のために、修学困難になった場合に貸与を受けられる奨学金です。学長の推薦があり、日本学生支援機構において審査・選考された院生に対して貸与されます。

比較文化専攻（博士前期課程）の概要

比較文化専攻（博士前期課程）の教育目的

現代は、国家・民族・宗教間の対立が激化している一方、国際化・グローバル化によって異文化交流が身近なものになっています。このような時代においては、これまでのような分断された専門分野での研究を超えた枠組みが必要になっています。

このため、比較文化専攻では、人文学系の大学院として、諸地域の文化、地理、社会、宗教、教育、言語、地域、ジェンダーに関する高度な知識を身につけ、現代社会の諸問題を解決できる人材を育成します。

【地域文化研究分野】

文化は、地域・環境・気候風土によって大いに異なります。また、背景が異なるにもかかわらず、共通点も見出せます。そこで、日本文化、アジア・オセアニアの文化、ヨーロッパ・アメリカの文化を学際的な視野から研究します。それまでに学んだ文学・歴史・地理・芸術・民俗などの領域を基軸に、新しい視点を開拓し、発展させます。

【社会・文化コミュニケーション分野】

世界の各地域をグローバルな視点から横断的・学際的にとらえ、言語・情報・表象・宗教・教育・地域等の現代社会の課題にせまるグローバル・スタディーズをめざします。

【女性学分野】

本分野は、21世紀の大きな学問領域であり、男女共同参画社会の実現という社会的責務を負っています。ジェンダーの視点から人文社会諸科学を統合する新しい超領域的な研究をおこないます。

比較文化専攻（博士前期課程）修了後の進路等について

本専攻では、3つの分野のいずれを選択しても、他の2分野への知的目配りをするように、履修指導を行っています。これによって、自己の専門分野を探究すると同時に、幅広い知識の獲得へ向き合う姿勢を身に着けることができます。

修了後は、博士後期課程への進学のほか、高度な知識と教養を有して地方自治体や企業への就職、あるいはNPO/NGOでの活動、学芸員の資格をいかし美術館・博物館への就職、また、専修免許(中学社会、高校地理・歴史)を取得し教育機関で次世代育成への貢献、さらに研究機関での研究等の進路があります。

修士論文指導教員選定資料（博士前期課程「修士論文指導」の内容）

教授 高山 啓子

メディアとそれによって伝達される情報と社会との関係を研究対象とする学生に対し、文献研究とメディア分析の方法を指導し、論文作成の指導を行う。

教授 西川 誠

日本近代史を研究対象とする学生に対し、史料の専門的な扱い方や読解を教授し、それぞれの興味関心を探求し論理的に展開することへの助言を行い、修士論文作成を指導します。

教授 大西 克典

西洋史を研究対象とする学生に対して、欧語論文の読解や先行研究の整理、同じく欧語史料の扱い方や分析方法を教授し、論文作成の指導を行います。

教授 小山 久美子

言語研究をする学生に対し、英語の各種構文の統語的・意味的分析を指導する。また、語用論（日本語・英語）に関する研究をする学生に対し、分析および論文作成の指導を行う。

教授 倉林 直子

冷戦期のアメリカ社会や文化、また、日米関係を研究対象とする学生に対し、先行研究の扱い方や文献資料の読解について教授し、修士論文作成のための指導を行う。

教授 眞田 尊光

仏教美術史・仏教史・日本美術史を研究対象とする学生に対し、作品の調査や文献史料の読解について教授し、修士論文作成のための援助・指導を行う。

教授 高津 純也

主に東アジア史を研究対象とする学生に対し、諸史料の専門的な扱い方や先行研究の渉猟と利用の方法を教授するとともに、自らの興味関心を論理的な自説の提示へと展開するための助言を通じ、修士論文作成の指導を行う。

教授 辻 明日香

古代オリエント史、イスラーム史を研究対象とする学生に対し、史料の専門的な扱い方や読解を教授し、それぞれの興味関心を探求し論理的に展開することへの助言を行い、修士論文作成の指導を行う。

教授 原田 晶子

西洋史を研究対象とする学生に対し、先行研究の理解を深め、史料を専門的に読解する方法を教授するとともに、自身の興味関心を探求し論理的に自説を展開・提示するための助言を通じ、修士論文作成の指導を行う。

教授 菱田 信彦

欧米の社会や文化に関心をもつ学生に対し、主にイギリス小説を題材として、批評理論やカルチュラル・スタディーズの手法をふまえつつ、ジェンダー・階級・人種など社会的・政治的アプローチによる分析を指導する。英語文献の利用方法や基礎的なアカデミック・ライティングについても指導を行う。

教授 藤原 昌樹

スポーツ文化やレジャーあるいはコミュニティデザイン、生涯学習などを研究対象とする学生に対し、修士論文作成に必要な基礎的事項や具体的な研究方法を提示しながら、指導・援助を行います。

教授 山下 琢巳

人文地理学を研究対象とする学生に対し、フィールドワークの手法を交えた地理学の調査・分析手法の習得を教授するとともに、修士論文作成の指導を行う。

教授 山名 順子

比較日本文化・フェミニズム批評を研究対象とする学生に対し、主に近世後期から近代末期の文学作品における表象の理解と分析の方法を指導する。また、研究に必要な方法論の解説、資料の扱い方を含めた論文作成の指導・支援を行う。

教員紹介（博士前期課程）

教授 高山 啓子

比較文化専攻長、女性学分野長、観光文化学科教授	
専門分野	社会学、エスノメソドロジー・会話分析、相互行為論、メディア論
研究テーマ	メディアをとおして行われるものを含めた人間の相互行為がどのように理解可能なものとなっていくのかを研究しています。その具体的例証として、さまざまな場面での会話、新聞、雑誌記事やテレビCMなどをとりあげています。

教授 西川 誠

学長、観光文化学科教授	
専門分野	日本近代史、日本政治外交史
研究テーマ	明治初期の政治史を中心に研究しています。具体的には、太政官制の政治的特質の検討、木戸孝允の政治構想の考察、明治天皇の伝記的研究等を行っています。

教授 大西 克典

史学科教授、博士(ピサ高等師範学校・歴史学)	
専門分野	イタリア近世史
研究テーマ	18世紀イタリアにおける行財政の改革について、トスカーナを中心に研究しております。

教授 小山 久美子

教育学部長、児童教育学科長、児童教育学科教授	
専門分野	英語学・言語学
研究テーマ	英語の各種構文の統語的・意味的分析、および語用論研究（日本語・英語）をおこなう。特に、there構文、分裂文・擬似分裂文、倒置構文の特性を統語・意味、情報構造の観点から分析している。また、日本語と英語を対象に比喩的表現の分析を行っている。

教授 倉林 直子

国際英語学科長、国際英語学科教授	
専門分野	アメリカ史、日米関係史
研究テーマ	第二次世界大戦後の日米文化交流、アメリカにおける日本イメージの変遷

教授 加藤 美由紀

児童教育学科教授、博士（教育学）	
専門分野	環境教育学、理科教育学
研究テーマ	環境教育、理科教育における生命と自然の捉え方に着目し、日本と海外のカリキュラムと教科書の分析、日本の明治時代から今日に至る教科書の分析に基づき考察を加えています。主に生物多様性保全に関する教育について扱ってきました。日本とオーストラリアの外来種に関する教育、日本と台湾、アジアの国々の外来種に関する教育や自然との共生について調査しています。また、生命を対象とする観点から、日本や諸外国のアニマルウェルフェアや生命倫理教育についても調査しています。

教授 齋藤 美重子

生活文化学科教授	
専門分野	教育学（家庭科教育、消費者教育）、生活経営学
研究テーマ	ユニバーサル・ケアについて諸外国の比較研究を行い、セルフアドボカシーが生きる社会に向けて生活課題に照らした哲学対話的教育実践を研究しています。また、現状分析のため、フィールド調査やインタビュー調査も行っています。

教授 眞田 尊光

日本文化学科長、日本文化学科教授	
専門分野	仏教美術史・仏教史・日本美術史
研究テーマ	東アジアの仏教美術、おもに日本の古代寺院や仏像彫刻を研究対象としている。

教授 高津 純也

文学部長、史学科長、史学科教授、博士（文学）	
専門分野	中国古代史
研究テーマ	春秋戦国期～漢代における中央集権国家の成立過程と、それが各国・各地域・各時代によっていかなる共通点と相違点を持つか、という点に関心がある。これに関連して、当該時期に成書したとされる諸文献に対する史料批判的研究を進めている。

教授 辻 明日香

史学科教授、博士（文学）	
専門分野	イスラーム史、オリエント史
研究テーマ	エジプトを中心に、イスラーム社会におけるイスラーム教徒とキリスト教徒の関係史や、古代からイスラーム期にかけての文化・習俗の継続と変容について研究している。

教授 戸澤 純子

観光文化学科教授、博士（心理学）	
専門分野	認知心理学
研究テーマ	人間の認知機能について、実験や調査を踏まえた心理学の研究を行っています。

教授 原田 晶子

史学科教授、Dr. Phil.	
専門分野	西洋中世史
研究テーマ	中世後期ドイツの帝国都市ニュルンベルクにおける一般信徒のキリスト信仰から都市社会について社会史的な視点で研究している。

教授 菱田 信彦

生活創造学部長、国際英語学科教授	
専門分野	イギリス小説、英語圏児童文学、文学批評理論
研究テーマ	20世紀の英語圏児童文学作品におけるジェンダー、階級、帝国主義の表象について

教授 藤原 昌樹

社会・文化コミュニケーション分野長、図書館長、ボランティアセンター長、史学科教授	
専門分野	スポーツ社会学、武道論、生涯学習論、コミュニティデザイン論
研究テーマ	剣道における称号・段位制度の社会学的研究が主たる研究テーマですが、スポーツをとおしたまちづくりや地域貢献、地域の活性化といったことも研究対象です。

教授 堀部 猛

史学科教授	
専門分野	日本古代史
研究テーマ	日本古代の手工業生産の国家的編成や、官衙・交通を軸に古代東国の地域史について研究しています。

教授 山下 琢巳

観光文化学科教授、博士（文学）	
専門分野	人文地理学、歴史地理学
研究テーマ	河川と人間活動とのかかわりを、かつての水害常襲地域の暮らしから明らかにする研究をしています。最近では、「小江戸」や「奥多摩」のように主に観光や地域ブランドとして使われる地域名称の展開にも関心があります。

教授 山名 順子

日本文化学科教授、博士（人文科学）	
専門分野	日本近世文学、日本近代文学
研究テーマ	18世紀末から19世紀にかけての日本文学作品における文化表象

准教授 伊藤 純

日本文化学科准教授	
専門分野	文化人類学、民俗学
研究テーマ	日本の民俗芸能の調査・研究。とくに獅子舞の歴史民俗学的研究や文化財保護制度・無形文化遺産制度に係る研究を行っている。

准教授 叶内 茜

生活文化学科准教授、博士（教育学）	
専門分野	家庭科教育学、保育学、食育
研究テーマ	乳幼児と中高生のふれ合い体験学習、幼児期の食育活動、子どもの居場所支援について研究をしています。

准教授 山口 恭平

児童教育学科准教授、修士（教育学）	
専門分野	教育学
研究テーマ	教育哲学・教育思想史的なアプローチから、特に「規範」と「主体」の関係をテーマにシティズンシップ教育・道徳教育について研究を行っている。これまで、イギリスのシティズンシップ科カリキュラムの分析、教育における政治的リテラシーや責任に関する研究を行ってきた。

講師 佐藤 翔馬

国際英語学科講師、博士（学術）	
専門分野	言語学、特に意味論・語用論
研究テーマ	英語の構文、特にit分裂文、It is that構文、it外置文など、いわゆる「虚辞のit」を含む構文を意味論的・語用論的に研究している。

講師 張 明

日本文化学科講師、博士（日本語日本文学）	
専門分野	日本語学、日本語教育学
研究テーマ	現代日本語の語彙・文法の記述的研究、特に漢語や接辞について体系的に研究をしています。日本語教育文法の研究にも興味を持っています。

講師 長崎 健吾

史学科講師、博士（文学）	
専門分野	日本中世史
研究テーマ	14～16世紀京都を中心とする都市社会史、都市民の生業、家族、信仰などを研究しています。

講師 山本 麻里耶

国際英語学科講師	
専門分野	英語圏児童文学（特にファンタジー文学）、表象研究
研究テーマ	19世紀末の英語圏児童文学（ファンタジー）に登場するドラゴンや動物の表象の変遷について研究しています。

比較文化専攻（博士後期課程）の概要

比較文化専攻（博士後期課程）は、比較文化領域の研究者・教育者の養成を第一の目的とするとともに、すでに修士号を取得して国際機関等で活動している人々に、これらの機関のオフィサーとして、諸外国のリーダーと伍して活動しうる人材の養成を目的としている。

本研究科を修了して博士の学位を取得するには、3年以上在学し、14単位以上を履修し、必要な研究指導を受けたうえ、学位請求論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

ただし特に優れた研究業績をあげた者は、1年以上3年未満の在学をもって修了することができる。本研究科における教育研究指導は次のように行われる。

- ①本研究科に入学した者は、自分の研究テーマに基づき、主たる研究指導教員（以下、指導主任教員）1名を選び、その指導主任教員のもとで研究テーマの細目を決定する。
- ②研究科生は、入学時に提出した「研究計画書」をもとに「長期研究計画書」（年次計画書）を作成し、入学年度の4月に指導主任教員に提出する。
- ③研究科生は、指導主任教員ならびに他の教員らの指導・助言を得ながら、統合的な視点から研究活動を進め、年2回の研究成果報告会で研究成果等を口頭で発表する。
- ④1年次後期開始時に、第1回研究成果報告会での報告を踏まえ、博士論文構想を指導主任教員に提出する。研究テーマ、執筆構想、年次計画等A4(40字×40行、約3000字)
- ⑤研究科生は、研究成果を『川村学園女子大学大学院研究年報』（以下、『研究年報』）に1編以上掲載する。さらに、学会誌等の査読付の学術専門誌に2編以上の論文を掲載する。
- ⑥研究科生は、『研究年報』掲載論文1編以上と2編以上の学術誌掲載論文をもって学位請求論文提出資格審査を、研究科長に任命された教員によって構成される資格審査委員会に請求する。
- ⑦資格審査委員会によって学位請求論文提出資格ありと認定された場合には、博士論文を提出期限（1月）までに提出する。
- ⑧提出された学位請求論文は、指導主任教員ならびに研究科長に任命された他領域の教員によって構成される論文審査委員会によって審査される。
- ⑨最終試験は審査委員会による口述試験とする。

博士論文指導教員選定資料（博士後期課程「博士論文指導」の内容）

教授 高山 啓子

ジェンダーに関わる社会現象を研究対象とする学生に対し、文献研究、事例の調査・分析の方法を指導し、論文作成の指導を行う。

教授 西川 誠

日本近代史を研究対象とする学生に対し、史料の専門的な扱い方や読解を教授し、それぞれの興味関心を探求し論理的に展開することへの助言を行い、修士論文作成を指導します。

教授 眞田 尊光

仏教美術史・仏教史・日本美術史を研究対象とする学生に対し、作品の調査や文献史料の読解について教授し、修士論文作成のための援助・指導を行う。

教授 高津 純也

主に東アジア史を研究対象とする学生に対し、諸史料の専門的な扱い方を教授するとともに、論理的な自説の提示を展開するための助言を通じ、博士論文作成の指導を行う。

教授 菱田 信彦

20世紀以降に英語圏で書かれた小説を題材とし、ジェンダー・階級・人種など社会的・政治的視点からテーマを設定して博士論文を執筆する学生の指導を行う。博論執筆の際の参考文献の扱いやアカデミック・ライティングについても指導する。

教授 藤原 昌樹

スポーツ文化やレジャーあるいはコミュニティデザイン、生涯学習などを研究対象とする学生に対し、修士論文作成に必要な基礎的事項や具体的な研究方法を提示しながら、指導・援助を行います。

教員紹介（博士後期課程）

教授 高山 啓子

比較文化専攻長、女性学分野長、観光文化学科教授	
専門分野	社会学、エスノメソドロジー・会話分析、相互行為論、メディア論
研究テーマ	メディアをとおして行われるものを含めた人間の相互行為がどのように理解可能なものとなっていくのかを研究しています。その具体的例証として、さまざまな場面での会話、新聞、雑誌記事やテレビCMなどをとりあげています。

教授 西川 誠

学長、観光文化学科教授	
専門分野	日本近代史、日本政治外交史
研究テーマ	明治初期の政治史を中心に研究しています。具体的には、太政官制の政治史的特質の検討、木戸孝允の政治構想の考察、明治天皇の伝記的研究等を行っています。

教授 加藤 美由紀

児童教育学科教授、博士（教育学）	
専門分野	環境教育学、理科教育学
研究テーマ	環境教育、理科教育における生命と自然の捉え方に着目し、日本と海外のカリキュラムと教科書の分析や、日本の明治時代から今日に至る教科書の分析に基づき考察を加えています。主に生物多様性保全に関する教育について扱い、日本とオーストラリアの外来種に関する教育、日本と台湾、アジアの国々の外来種に関する教育や自然との共生について調査しています。また、生命を対象をとする観点から、日本や諸外国のアニマルウェルフェアや生命倫理教育についても調査しています。

教授 眞田 尊光

日本文化学科教授	
専門分野	仏教美術史・仏教史・日本美術史
研究テーマ	東アジアの仏教美術、おもに日本の古代寺院や仏像彫刻を研究対象としている。

教授 高津 純也

文学部長、史学科長、史学科教授、博士（文学）	
専門分野	中国古代史
研究テーマ	春秋戦国期～漢代における中央集権国家の成立過程と、それが各国・各地域・各時代によっていかなる共通点と相違点を持つか、という点に関心がある。これに関連して、当該時期に成書したとされる諸文献に対する史料批判的研究を進めている。

教授 原田 晶子

史学科教授、Dr. Phil.	
専門分野	西洋中世史
研究テーマ	中世後期ドイツの帝国都市ニュルンベルクにおける一般信徒のキリスト教信仰から都市社会について社会史的な視点で研究している。

教授 菱田 信彦

生活創造学部長、国際英語学科教授	
専門分野	イギリス小説、英語圏児童文学、文学批評理論
研究テーマ	20世紀の英語圏児童文学作品におけるジェンダー、階級、帝国主義の表象について

教授 藤原 昌樹

社会・文化コミュニケーション分野長、図書館長、ボランティアセンター長、史学科教授	
専門分野	スポーツ社会学、武道論、生涯学習論、コミュニティデザイン論
研究テーマ	剣道における称号・段位制度の社会学的研究を主たる研究テーマにしています。スポーツをとおしたまちづくりや地域貢献、地域の活性化といったことも研究対象です。

教授 山下 琢巳

観光文化学科教授、博士（文学）	
専門分野	人文地理学、歴史地理学
研究テーマ	河川と人間活動とのかかわりを、かつての水害常襲地域の暮らしから明らかにする研究をしています。最近では、「小江戸」や「奥多摩」のように主に観光や地域ブランドとして使われる地域名称の展開にも関心があります。

研究指導の流れ

項 目	第1年次		第2年次		第3年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
研究計画	提出・検討・指導					
専門研究演習	○	○	○	○		
補完・関連分野演習	○					
文献等のアサインメント	○	○	○	○	○	
調査実施指導	○	○	○	○	○	
研究報告	3回	3回	3回	3回		
学位論文の執筆		論文計画 (目次・章)	論文執筆 (前半)		論文執筆 (後半)	改訂 補正
学位論文中間報告				中間報告	中間報告	
学位論文審査					予備審査	口述試験 本審査

博士後期課程における出願事前相談

博士後期課程では、本課程の教育・研究内容について、出願前での質問を受け付けています。出願に際して、志望する教育・研究分野に関連することで、質問等がある場合は事務部入試広報を通じて問い合わせてください。事務部入試広報の連絡先は、電話（04-7183-0114）、もしくはメール（master@kgwu.ac.jp）でご相談ください。

川村学園女子大学

我孫子キャンパス：〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133 Tel.04-7183-0111（代表）

■大 学 院 心理学専攻 比較文化専攻

入学試験のお問い合わせは、我孫子キャンパス事務部入試広報へ

Tel.04-7183-0114 Fax.04-7183-5993